

業績動向

(2019/3期第1四半期の状況)

説明者 専務取締役 深井 彰彦

2018年8月2日



群馬銀行

東証第1部:8334

1. 収益状況等		
損益（連結）	P. 1
残高・利回（単体）	P. 2
資金利益の状況	P. 3
2. 貸出金残高の内訳	P. 4
3. 有価証券の状況	P. 5
4. 非金利業務利益	P. 6
5. 与信費用等の状況（単体）	P. 7
6. 中期経営計画目標の達成見込み	P. 8
7. グループ総合力の発揮	P. 9
8. 自己資本等の状況	P. 10
9. 1株当たり指標等と株主還元の状況	P. 11

1. 収益状況等

(単位:億円、%)

■ 損益(連結)

	No.	第1Q 18/6期	前年		上期計画 18/9期	年間計画 19/3期
			上期 計画進捗	同期比		
コア業務粗利益	1	271	58.6	▲ 15	463	912
資金利益	2	222	60.5	▲ 16	367	726
投信解約益	3	31	① 194.4	▲ 7	16	42
除く、投信解約益	4	190	54.3	▲ 9	351	684
非金利業務利益	5	49	51.3	1	96	186
役務取引等利益	6	40	52.8	0	77	148
その他業務利益	7	8	45.2	1	18	38
経費(除く、臨時)	8	151	51.5	▲ 1	293	576
コア業務純益 1-8	9	120	70.7	▲ 13	170	336
有価証券関係損益	10	65	① 90.3	▲ 26	73	110
与信費用	11	② 18	313.7	10	6	23
経常利益	12	163	③ 71.3	▲ 47	230	415
四半期(当期)純利益 (親会社株主帰属分)	13	111	69.4	④ ▲ 33	160	285
銀行単体	14	106	71.3	▲ 32	150	260
連単差額	15	4	41.3	0	10	25

《 主な要因 》

① 相場動向を踏まえた年間計画の前倒し実施。
 ・政策株・・・順調に進展
 ・純投資・・・ポート改善に向け外債の入替(売先行)に伴う処分損も計上(24億円)

② 比較的大口先を格下げしたことに伴う引当増(約7億円)が主因。
 ・第1Qは引当率の見直し(低下)を行わない。

③ 総括すると、貸出金、役務取引が計画通り。有価証券計画の前倒し実施により、上期計画の進捗率は71%と順調な滑り出し。

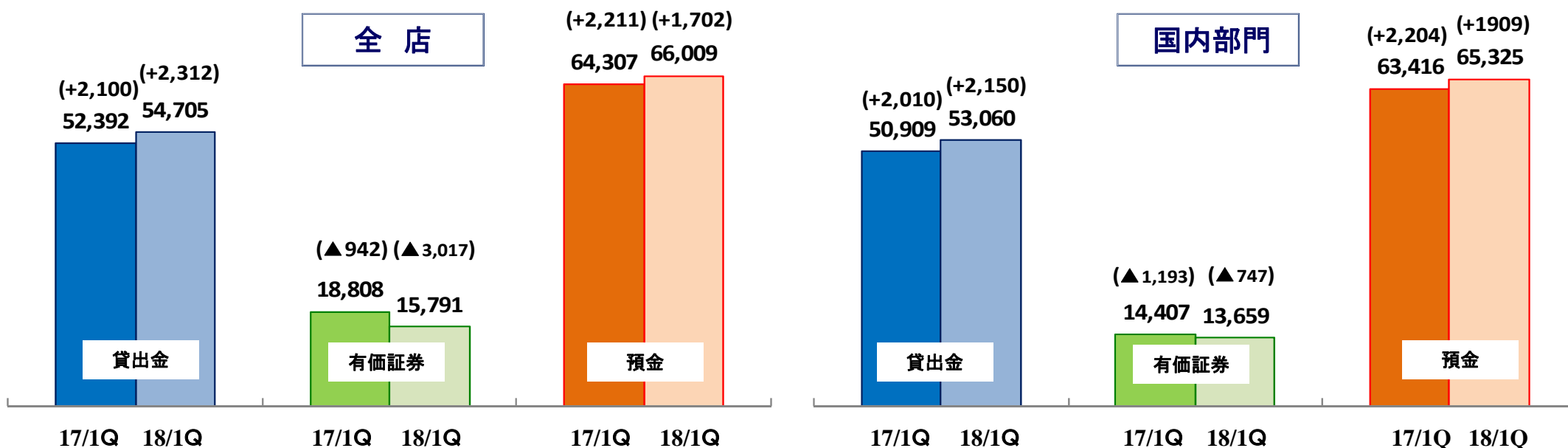
④ 前年同期比のマイナスは、基本的に前年の計画比前倒し度合いが、より大きかったことによる。

◆ 残高・利回(単体)

■ 平均残高 (4月-6月)

(): 前年同期増減額

(単位: 億円)



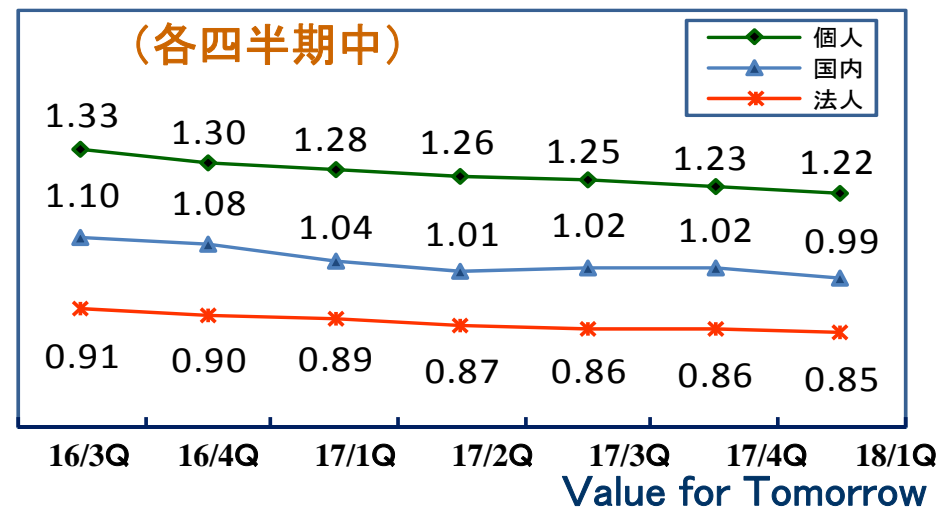
■ 利回(国内部門)

(単位: %)

	第1Q 18/6期		年間計画 19/3期		18/3期	
	4月-6月	前年 同期比		前年比		前年比
貸出金利回	0.99	▲0.05	0.99	▲0.03	1.02	▲0.09
有価証券利回	2.36	▲0.14	1.31	▲0.03	1.34	0.14
預金利回	0.01	-	0.01	-	0.01	-
総資金利鞘	0.41	▲0.05	0.24	▲0.03	0.27	-

➤ うち国内貸出金利回(性質別)

(単位: %)



◆ 資金利益の状況

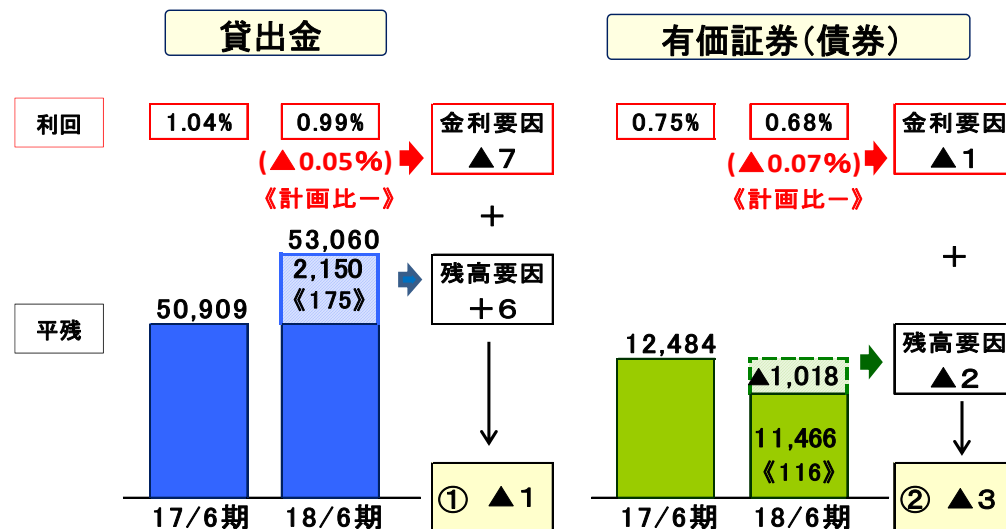
(単位: 億円、%)

■ 資金利益の状況

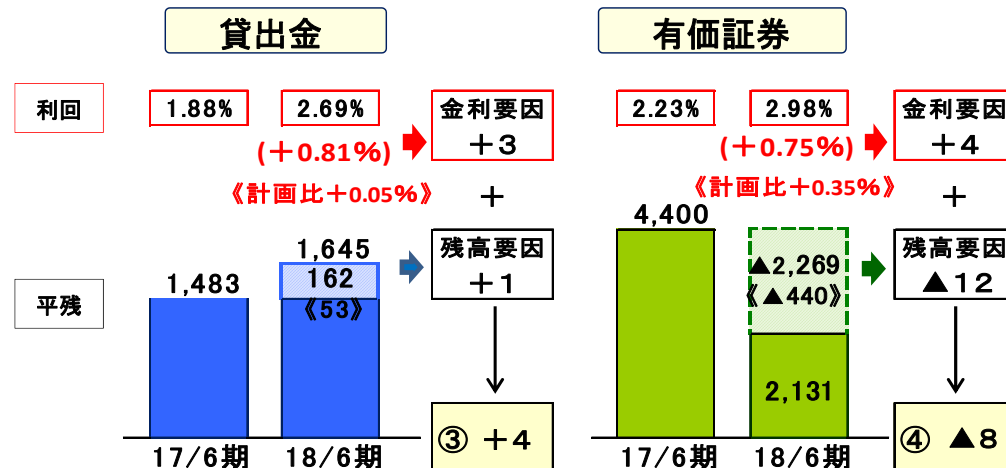
	No.	第1Q		計画
		18/6期	前年同期比	
資金利益(連結)	1	222	▲ 16	726
資金利益(銀行単体)	2	222	▲ 16	727
国内業務部門	3	211	▲ 10	700
うち預貸金	4	129	▲ 0	516
貸出金利息	5	131	▲ 1	523
預金利息(▲)	6	1	▲ 0	7
うち有価証券利息配当金	7	80	▲ 9	176
債券利息	8	19	▲ 3	71
配当金・分配金	9	29	1	63
投信解約益	10	31	▲ 7	42
国際業務部門	11	10	▲ 6	27
うち貸出金利息	12	11	4	47
うち有価証券利息配当金	13	15	▲ 8	65
調達費用(▲)	14	17	2	86

■ 前年同期比の内訳(金利要因・残高要因)

《国内部門》



《国際部門》



2. 貸出金残高の内訳

(単位: 億円、%)

	17.3末	16.3末比		18.3末	17.3末比		18.6末	17.6末比	
		増減額	増減率		増減額	増減率		増減額	増減率
貸出金	52,242	1,769	3.5	55,186	2,943	5.6	55,056	1,757	3.3
リテール	41,214	2,401	6.2	43,544	2,329	5.6	43,511	2,132	5.2
中小企業(*1)	19,621	1,202	6.5	20,999	1,377	7.0	20,900	1,260	6.4
個人	21,593	1,199	5.9	22,545	951	4.4	22,611	872	4.0
うち住宅関連融資	20,876	1,154	5.9	21,809	932	4.5	21,879	854	4.1
住宅ローン	13,005	154	1.2	13,148	143	1.1	13,141	121	0.9
アパートローン	5,469	550	11.2	5,934	465	8.5	5,992	451	8.1
その他	2,401	449	23.0	2,725	323	13.5	2,745	281	11.4
うち無担保消費者ローン	448	61	16.0	488	40	9.1	495	36	7.9
その他	9,297	▲764	▲7.6	9,259	▲37	▲0.4	9,273	103	1.1
クロスボーダー	803	171	27.2	922	118	14.7	922	89	10.7
ストラクチャードファイナンス	-	-	-	36	36	-	53	53	-
国内大・中堅企業	6,936	▲946	▲12.0	6,770	▲165	▲2.4	6,859	28	0.4
その他(*2)	1,557	9	0.6	1,530	▲27	▲1.7	1,439	▲67	▲4.5
海外店	482	▲50	▲9.5	492	10	2.1	534	41	8.4
公共	1,247	182	17.1	1,889	641	51.4	1,736	▲519	▲23.0

《中小企業》

	京浜	埼玉	群馬他
残高	3,083	4,946	12,870
増加額	612	233	414
増加率	24.8	4.9	3.3

・増加額

3割・・・群馬・栃木

7割・・・京浜・埼玉

《アパート》

	京浜	埼玉	群馬他
残高	946	1,376	3,669
増加額	210	90	150
増加率	28.6	7.1	4.3

・増加額

3割・・・群馬・栃木

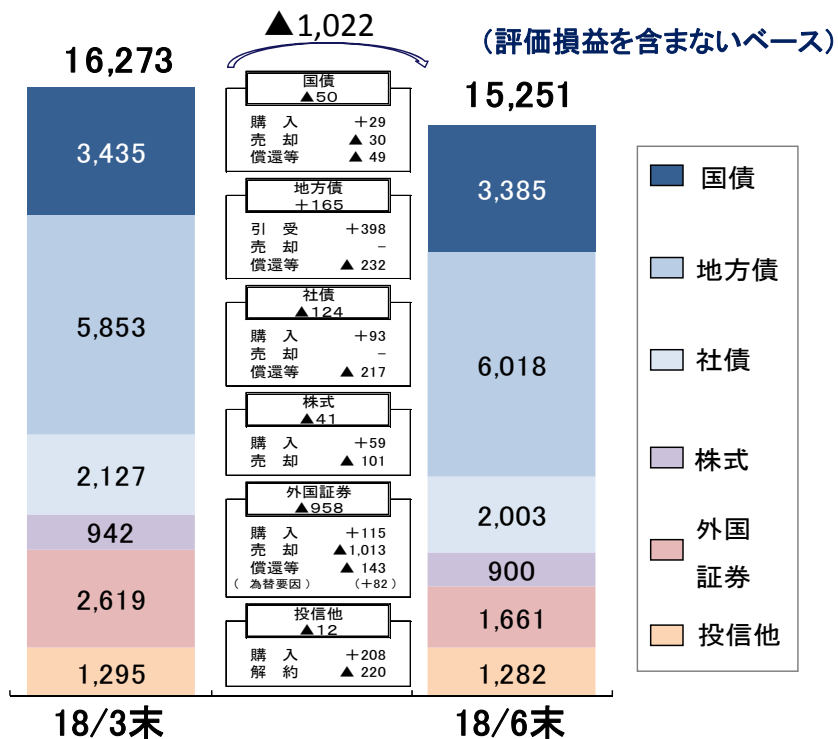
7割・・・京浜・埼玉

※ 「中小企業」(*1)には地方公社、東京支店・大阪支店勘定を含めず、その他(*2)に区分しています。

3. 有価証券の状況

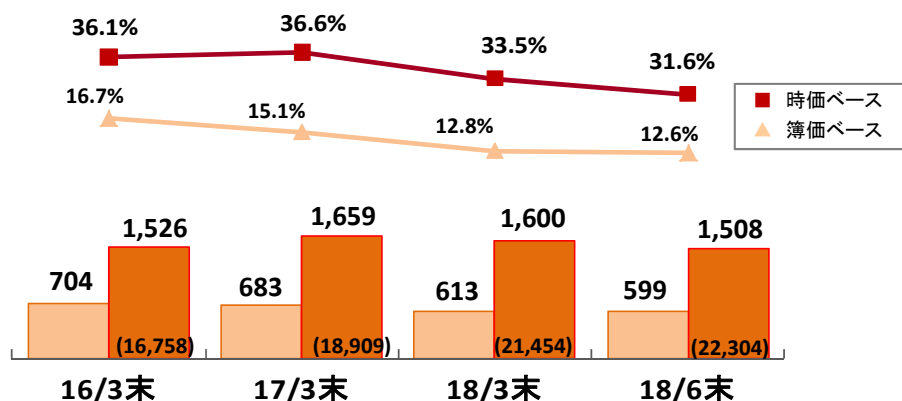
■ 有価証券末残高

(単位:億円)



■ 政策投資株式/単体Tier1

(単位:億円)



※子会社、非上場を含む。()内は日経平均株価

■ その他有価証券評価損益と売却損益

(単位:億円)

	評価損益			売却損益 (18/6期)		
	18/3末	18/6末	増減	資金利益	債券関係	株式関係
株式	1,139	1,010	▲129			88
政策	986	909	▲77			41
純投	153	100	▲52			47
外国証券	▲6	11	17		▲24	
ETF	▲1	7	8			
債券他	▲5	4	9		▲24	
投資信託	22	15	▲7	31		1
私募	14	▲3	▲18	31		
REIT	7	19	12			
ETF	0	▲0	▲1			1
小計	1,155	1,036	▲119			
債券	195	184	▲11		0	
合計	1,351	1,220	▲130	31	▲23	89

■ デュレーション・利回

	債券		外国債券	
	18/3末	18/6末	18/3末	18/6末
修正デュレーション(年)	4.16	4.30	3.90	3.06
債券平均利回(%)	0.72	0.68	2.19	2.93

■ 現在の増強ポイント

《リスクアペタイト的投資の拡大》

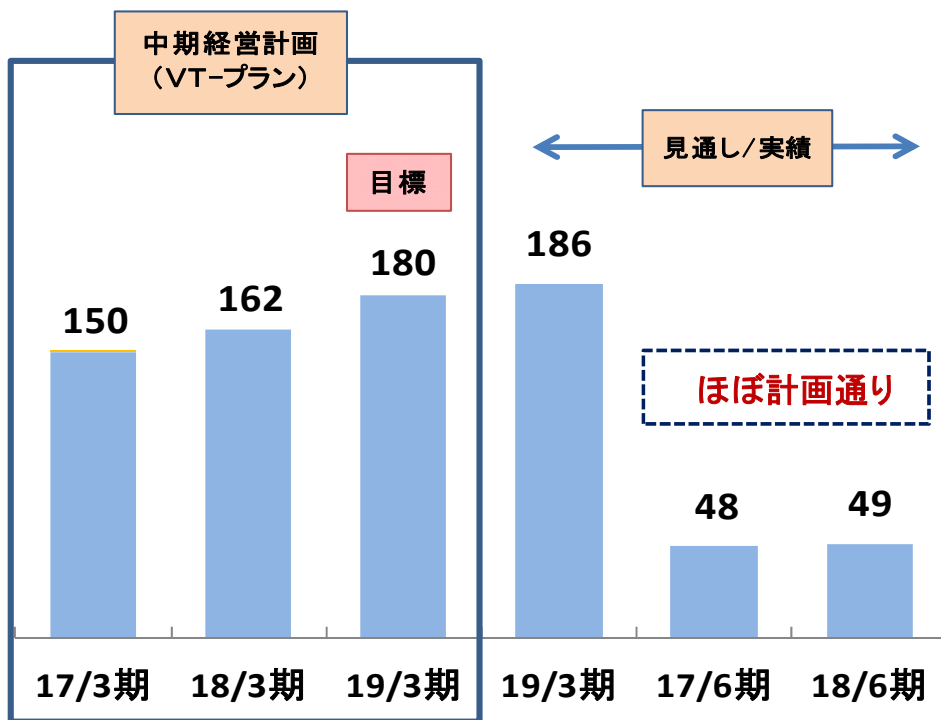
- ① 高配当株式等 …… 国内、欧州等先進国
- ② REIT …………… 国内リート、米国優先リートファンド
- ③ その他ファンド …… バンクローン、海外社債、PE

《外国証券ポートの改善》

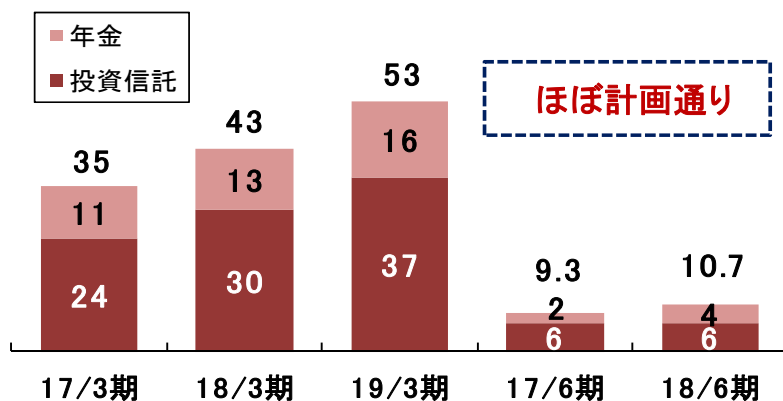
- ・入替(買い)の実施 …… 米国債、MBS(ジニーメイ保証付)

4. 非金利業務利益

■ 連結非金利業務利益の状況



■ 投信・保険手数料の内訳



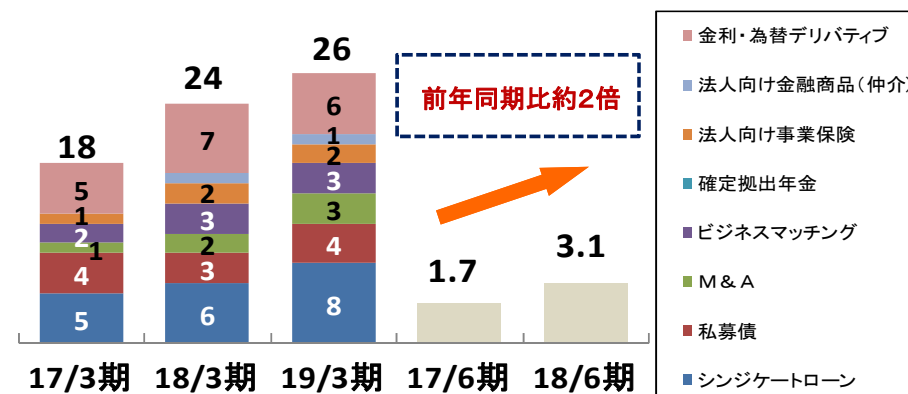
■ 非金利業務利益の内訳

(単位: 億円)

	18/6期	前年同期比	19/3期	前年比
連結非金利業務利益	49	1	186	8
銀行	35	0	130	8
基盤役務収益※	21	0	86	1
投信・保険手数料	10	1	53	10
法人役務収益	3	1	26	2
その他受払ネット	2	▲0	14	0
団信保険料	2	▲2	▲30	▲4
ローン保証料	▲4	0	▲20	▲1
子会社等	14	1	56	0
群馬信用保証	6	0	25	0
ぐんぎんリース	6	0	24	▲1
ぐんぎん証券	3	1	15	3
連結修正等	▲1	0	▲8	▲2

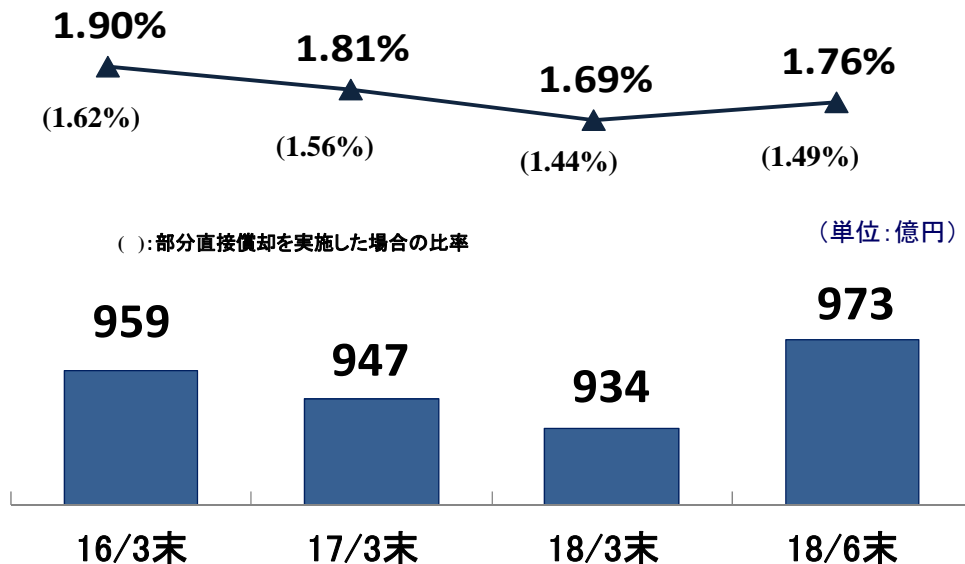
※基盤役務収益=為替、代理事務、EB、貸金庫等の手数料

■ 法人役務収益の内訳



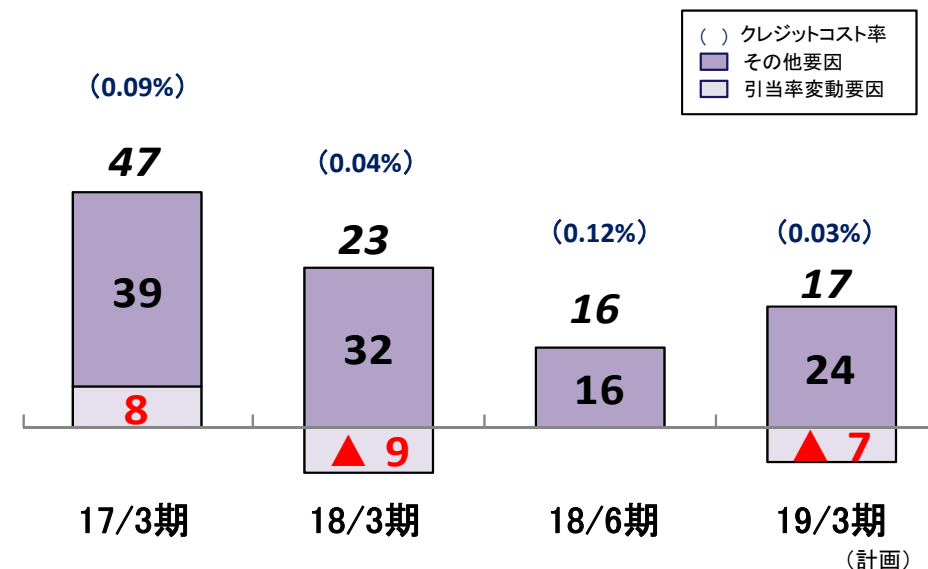
5. 与信費用等の状況(単体)

■ リスク管理債権額(比率)の推移



■ クレジットコストの推移

(単位: 億円)



■ 貸倒引当金の引当率

(単位: %)

引当対象			17/3期	18/3期	18/6期	19/3期 (計画)
正常先			債権全額	0.039	0.044	0.047
その他	実抜計画先でない先	区分1	債権全額	1.111	1.038	0.983
		区分2	債権全額	8.106	7.200	6.521
要管理先					左	
破綻懸念先Ⅲ分類			非保全額	39.488	37.470	35.957

◇与信費用について

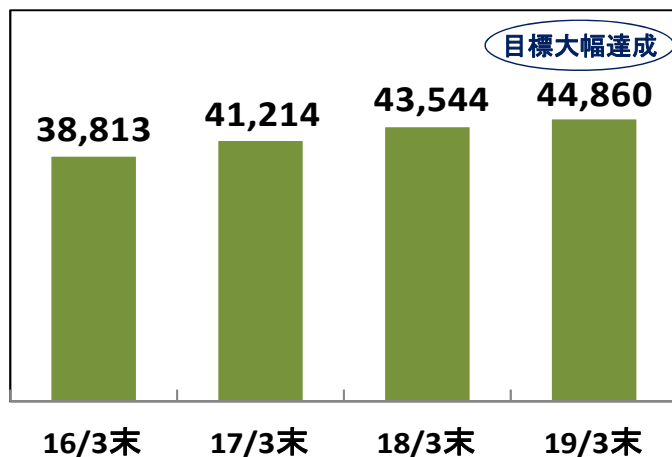
- ・現時点で年間見通しを大きく見直す状況には無い
- ・今回(18/6期)の主な内容
 - ① 製造業の大口1社 約 7億円 (正常 ⇒ 実質破綻)
 - ② ランクダウン(大口4社) 約 4億円 (破綻懸念 ⇒ 実質破綻)
 - ③ その他ランクアップ/ダウン等(ネット) ... 約 5億円
 - ④ 地域・業種等に偏りは無い

6. 中期経営計画目標の達成見込み

(単位: 億円)

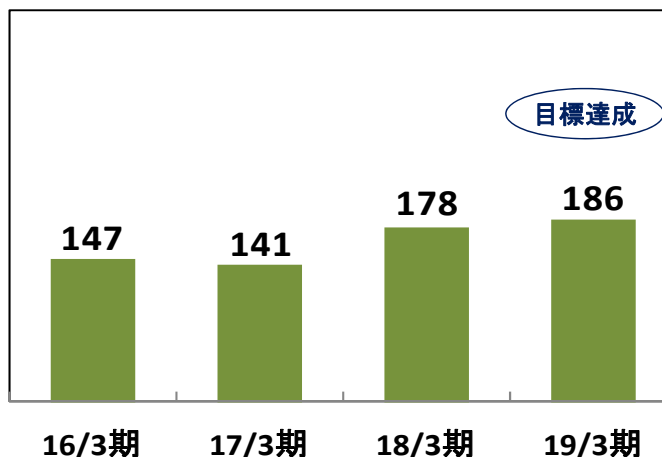
■ リテール貸出未残

43,500億円



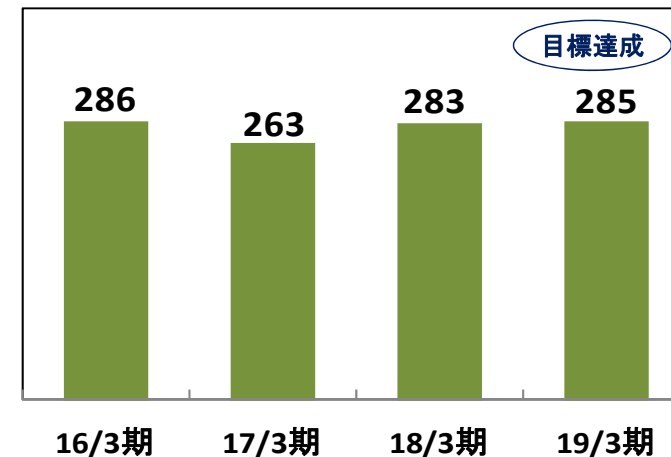
■ 非金利業務利益(連結)

180億円



■ 当期純利益(連結)

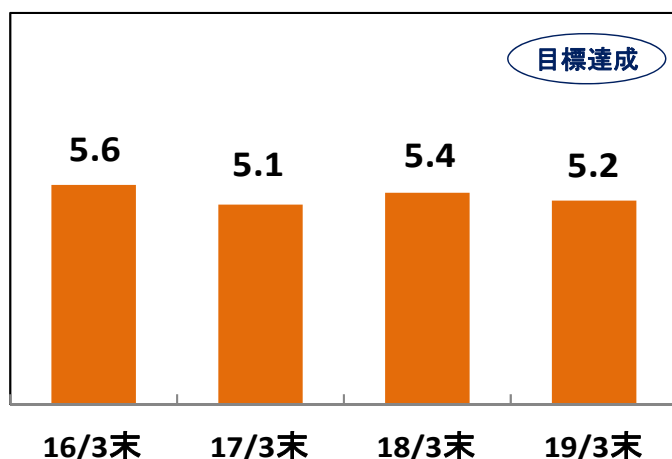
280億円



(単位: %)

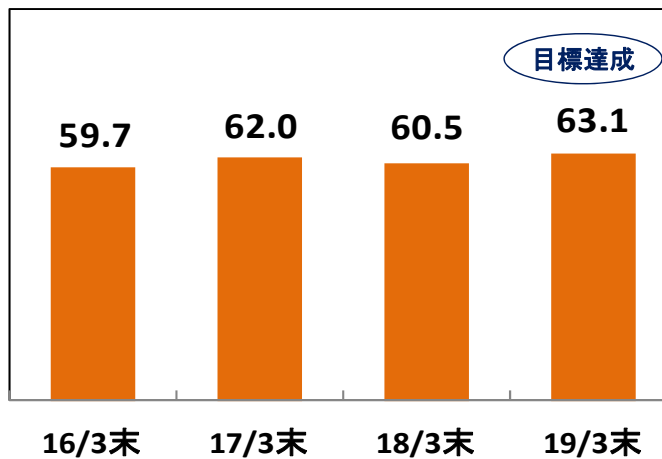
■ ROE(連結)

5%台



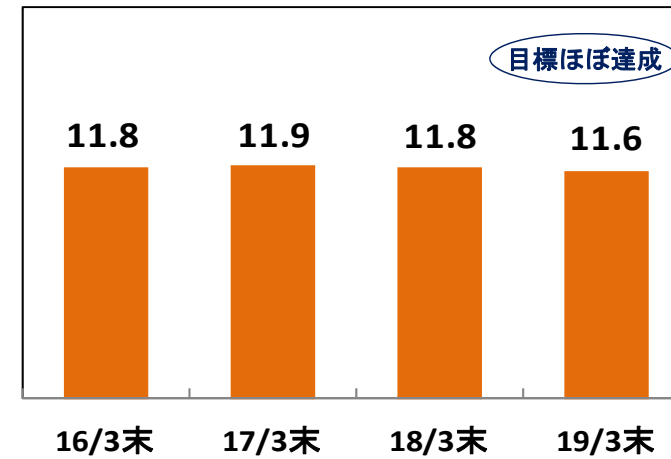
■ OHR(連結)

65%程度



■ 普通株式等Tier1比率(連結)

12%台



7. グループ総合力の発揮

(%) : グループ持分割合

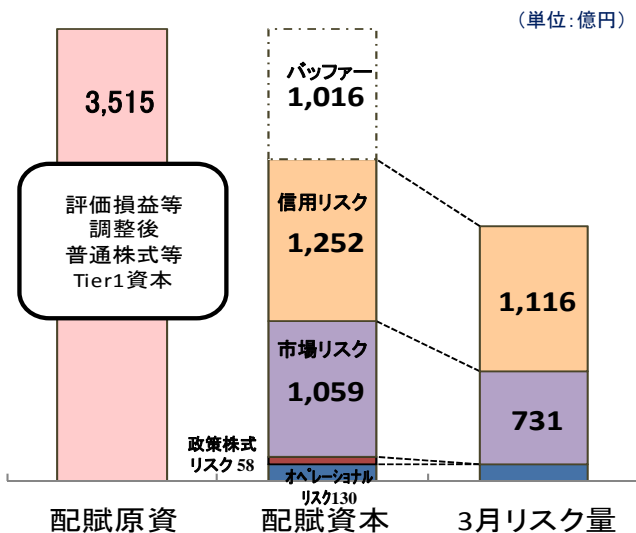


8. 自己資本等の状況

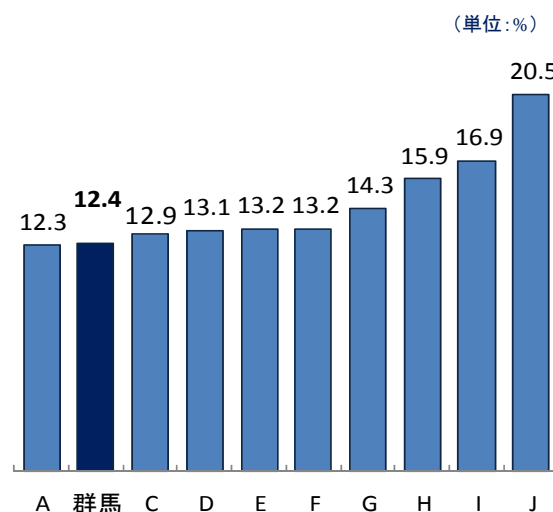
■ 自己資本充実度の評価

リスクの状況と規制比率の状況から自己資本充実度を評価する枠組み

<リスクの状況(18/3期、単体)>



<規制比率の状況(18年3月末、連結)>



《評価》

- ・バッファの十分性をストレステストで確認
- ・リスクへの備えとして問題ない資本水準

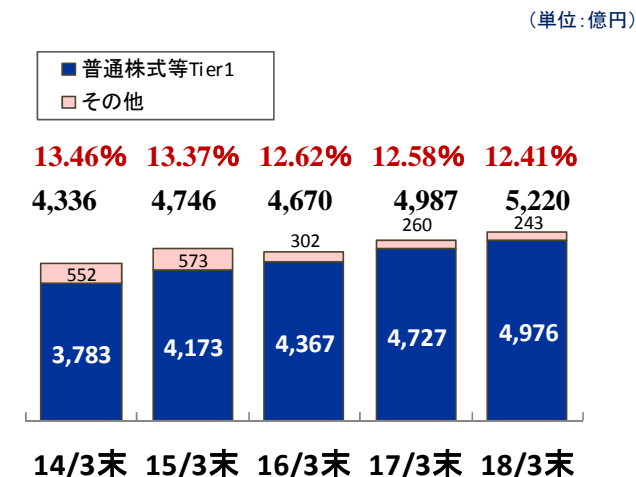
《評価》

- ・規制対比問題ない水準
- ・但し、各種ストレステスト結果や地銀他行水準を踏まえると総自己資本はやや見劣る水準。

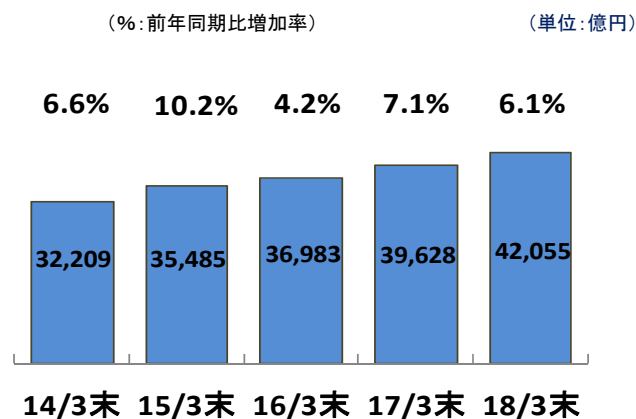
■ 自己資本の増強(劣後調達)

増額手段	年限	金額	クーポン	発行日	自己資本比率 引上効果
BⅢT2債 (機関投資家向け)	10年債 (NC5年)	100億円	0.40% (5年以降L+0.44%)	16.10.28	0.26%
BⅢT2債 (個人向け)	10年債 (NC5年)	100億円	0.50% (5年以降5YSWAP+0.43%)	17.4.28	0.26%
BⅢT2債 (機関投資家向け)	10年債 (NC5年)	100億円	0.40% (5年以降L+0.29%)	18.4.27	0.24%

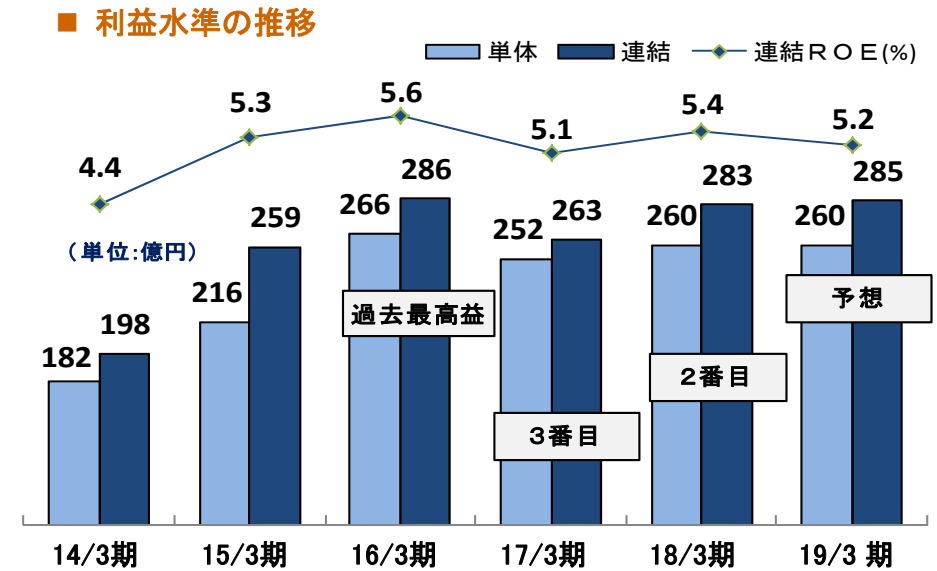
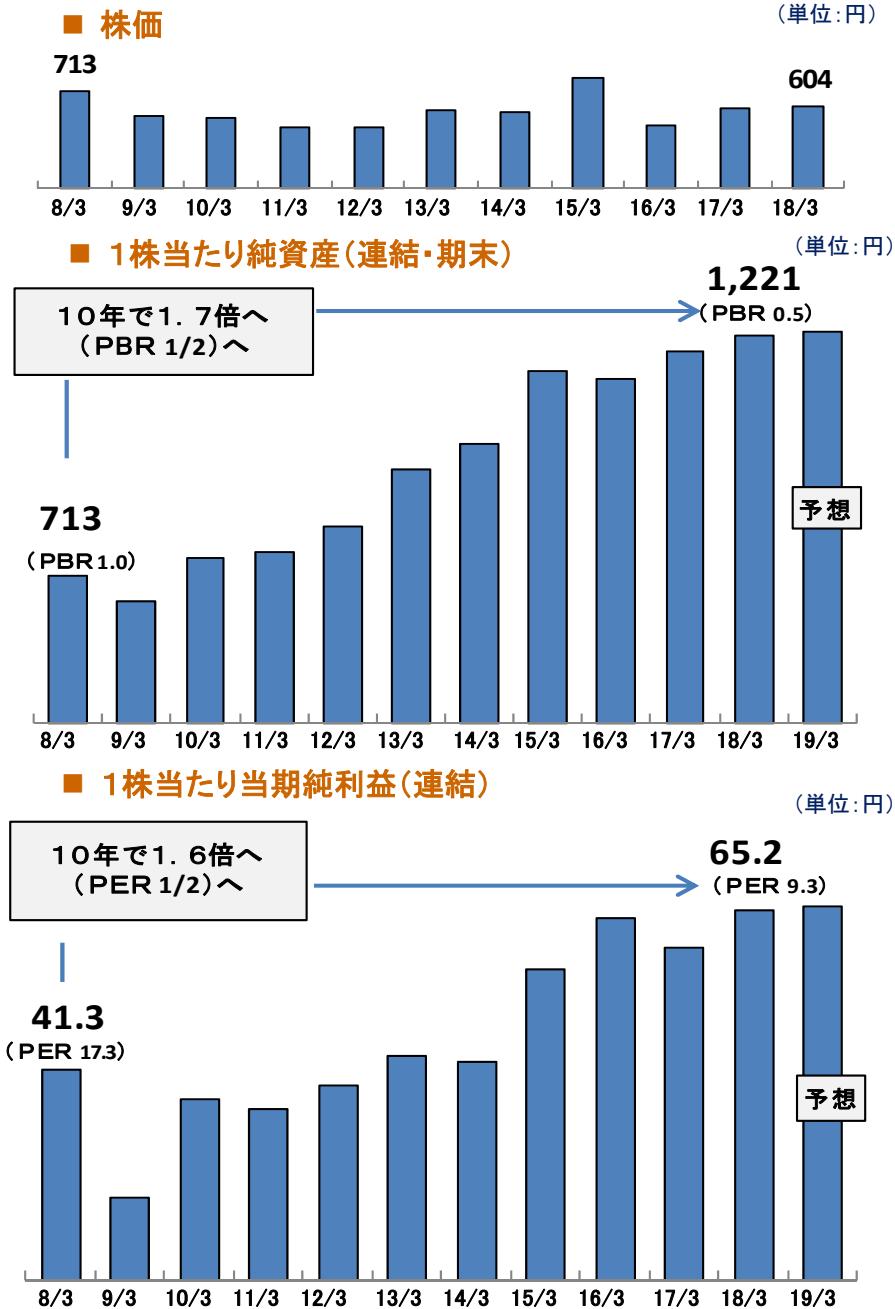
■ 連結総自己資本比率の推移



■ 連結リスク・アセットの推移

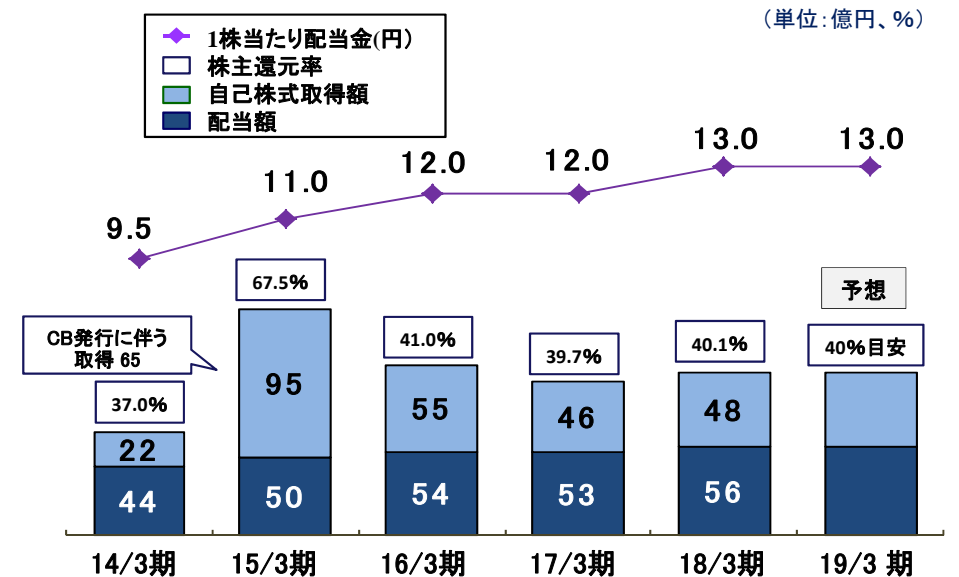


9. 1株当たり指標等と株主還元の様況



■ 株主還元の様況

※株主還元方針: 40%目安=(配当総額+自己株式取得額)/単体当期純利益



本資料には将来の業績に関する記述が含まれております。

こうした記述は将来の業績を保証するものではなく、

リスクや不確実性を内包するものです。

将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比異なる

可能性があることにご留意下さい。

本件に関するお問合せ先

株式会社群馬銀行 総合企画部 経営管理室(IR担当)

TEL 027-254-7055、7051、9451